

山形県教育センターだより

山形県教育センター

研究・情報課 指導主事 伊藤 泰司

1 はじめに

県教育センターは、本県教員の中核的な研究・研修・相談機関として、教員の資質向上のための研修の充実、教育課題を踏まえた実践的研究の推進と成果の普及に努めています。さらには、学校や各研究会の研究・研修活動への協力、教育資料の情報発信などを通じて、学校や先生方の支援も行っています。

2 調査研究

山形のよさを生かした教育の推進をめざし、学校や研究機関等との連携を図りながら、時代の要請を受けた調査研究を行っています。今年度、本センターで進めている研究事業について、概要を紹介いたします。

① 「探究型学習」によって確かな学力を育成する授業づくりについて [H30 年度（単年度更新）]

「探究型学習」では、児童生徒の主体的・協働的な学びによる課題解決学習を通して、基礎的な知識・技能の習得にとどまらず、教科の枠にとらわれずに知識・技能を活用して、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等や、主体的に学習に取り組む態度を育成することをねらいとしています。その実現に資するため、確かな学力を育成する授業づくり等について研究し、教材作成を行います。

② 小学校英語教育に係る学校ニーズへの対応

[H29 年度から 3 年間]

2020 年度の小学校における外国語活動及び外国語の必修化に向けた基礎研究並びに研修プログラムの開発を行います。

③ 教育の情報化に係る学校ニーズへの対応

[H30 年度（単年度更新）]

情報モラル教育、教育における ICT 活用、校務の情報化の三つの領域について、本県教員の ICT に関する能力向上のための研究・開発を行います。

④ 特別支援教育に係る学校ニーズへの対応

[H30 年度（単年度更新）]

特別支援教育力の向上に資するため、適切な教育課程の編成、授業づくり、校内支援体制の活性化等に関する研修資料作成及び普及・推進を行います。

⑤ いじめ防止対策支援プログラムの推進

[H30 年度（単年度更新）]

いじめ防止対策支援プログラムの推進・普及を図るとともに、保護者連携、早期発見・早期対応、未然防止実践の各プログラムの改善を進めます。

⑥ 長期研修生が主体的に設定したテーマによる研究
県教育センターの研究の共同研究者として研究を進める「研修 A」と、研修生が主体的に設定したテーマにより研究を進める「研修 B」の 2 種類を実施しています。

今年度は、研修 A の小学校英語教育に係る学校ニーズへの対応と研修 B の特別支援教育に係る研究において長期研修生を迎えて進めています。

3 全国教育研究所連盟総会・研究発表大会及び都道府県指定都市センター所長協議会総会・研究協議会山形大会の開催について

昨年 6 月 14・15 日の 2 日間にわたり、滝の湯ホテル（天童市）を会場に、77 の都道府県指定都市の教育センター、教育関係機関及び企業から、158 名の参加者を迎え、上記大会が盛大に開催されました。この大会は、全国の教育研究機関相互の連絡・連携を密にし、調査研究の進展、教育の改善・進歩に寄与することを目的とし、毎年開催されています。

全国教育研究所連盟研究発表大会では、加盟機関全体で設定した研究課題についての発表と、各教育機関が独自で進めている研究や取組についての発表計 15 本が行われました。本教育センターも「児童生徒の確かな学力を育成する『探究型学習』の推進」について発表しました。

都道府県指定都市センター所長協議会研究協議会には、「新学習指導要領の下でのアクティブ・ラーニングについて」を研究協議テーマとし、茨城県教育研修センターと埼玉県総合教育センターより発表をいただき、熱心な協議が行われました。

このような研究発表会や協議会で得たことを活かし、より一層、研究・研修事業の充実、推進に努めたいと考えております。

4 おわりに

県教育センターでは、校内研修や各教育研修会等の活動を支援するために、指導主事を派遣する出前サポート（環境教育、探究型学習、情報教育、いじめ防止支援、特別支援教育、教育相談）を行っています。平成 29 年度は、209 箇所、受講者数 6,706 人の先生方にご活用いただきました。これからも各学校のニーズに応じて、きめ細かなサポートを実施いたします。お気軽にご相談ください。